



「神さま、仏さま」

JERC (Japanese Educational Resource Center) News Letter No. 1253 号に掲載された、当グリークラブ副会長土田三郎さんの随想です。

「神さま、仏さま」

日本海の庄内平野に悠然とそびえる鳥海山。その山麓の狭間に点在する寒村に私の実家があります。家の中には、神棚と仏壇があります。神棚には、古事記や日本書記による神の物語による小さな神社があり、宇宙観のある神道の神さまがおられます。祖先を敬い、自然を崇拜し、すべての命に感謝する祭祀がこの神社に納められています。神棚の下には、金箔で装飾された仏壇があり、仏さまと観音さまがおられます。仏壇は、大乘仏教の流れを汲む禅宗曹洞宗の様式です。こうして 18 歳まで私は、神さまや仏さま、観音さまと一緒に生活し、あの世の存在、魂や霊の存在を意識してきました。般若心経を唱えながら、今でもそのように意識しております。

あるお坊さんが教えて下さいました。「インドから東南アジアに伝わった小乗仏教は、英語で簡単に言えば、“I go by bicycle alone.” です。一方、中国経由の大乘仏教は、“We go by bus together.” です。」簡潔明瞭でした。同時に、仁や礼を基本とする儒教の祖、孔子の思想は、武家社会の基本となったことも学びました。「論語」や新渡戸稲造の「武士道」は私の愛読書の一つです。こうして神儒仏が一体化し、宇宙と共存する宗教観が、私の思想に育まれました。

27 歳から、私はデンマークとイギリスに 6 年間滞在しました。そこは私の宗教観を激変させる社会で、カルチャーショックを覚えました。「唯一絶対神」を標榜するユダヤ教、キリスト教、イスラム教などによる、他民族の宗教を拒絶する宗教戦争のためです。また、北アイルランドでのカトリックとプロテスタントの戦いも、近年のイスラム国戦争のように悲惨なものでした。欧州は、宗教戦争の総本山の歴史でした。



その後、ここアメリカに来て 27 年間で、私の人生は日本と海外生活が半分づつになりました。今、私は男声合唱団に属し、当初は抵抗のあった讃美歌も、素直な心で歌えるようになりました。合唱しやすい旋律が多いことが、私の心を和らげたようです。「Ave Maria」を合唱する時は、崇高な心になります。

しかし、今まで世界で勃発している多くの戦争は、この唯一絶対神がその遠因であると、私は思っています。他民族の神は絶対に受け入れない、自分たちの神だけが、「永遠の神、唯一絶対神」となるためです。

人類は、人智を超える神に祈りを捧げ、神の庇護のもとで民族の繁栄を望み、神を信仰してきました。私は、この地球で人が生きるために信仰心は必須と思います。地域により異なった宗教があることは、「宇宙の意志」であろうと思います。しかし、地球の人口は、2015 年度で約 73 億人です。85 年後の 2100 年には 112 億人と予測され、地球はパンク寸前です。今や、「地球を救う」ことが、宗教もフィロソフィーも政治も含めて、人類史上の命題になりました。

私は、地球を救うためには、各宗教宗派が「足るを知る心」に焦点を絞って融合し、宇宙に共存する宗教として地球を救う礎となることを、心の奥底で願っています。なぜならば、人類に男と女がおり、動植物にも雄と雌があるように、相反するものや異質のものが融合することにより、森羅万象の命が進化発展しているのが、この宇宙の意志であると信じるからです。

「神さま、仏さま、この美しい地球をお救いください！」

JERC 理事 土田三郎・2016 年 5 月

